



男女共同参画コーナー

R5.4 月

ひゅーら ~Human Love~

日常生活での性的少数者への気づきについて
～理解の輪を広げるためには～

LGBTなど、性的少数者を指す言葉が世に広まってきて数年経ちました。最近は、テレビなどでのゲイやトランスジェンダーなどの取り上げ方が変わってきたように思います。

【テレビなどでの取り上げられ方とその影響】

今から30年ほど前は、いわゆる“オカマキャラ”やゲイをネタにしたコントなど、性的少数者を特別視したり揶揄したりするテレビ番組もありました。当事者の中には、その影響で周囲から好奇の目に晒されたり、からかわれたりなど、不快な思いをした方もいたかもしれません。

しかし最近では、ドラマなどでも性的少数者を特別視することなく取り上げるようになり、世間の認識なども変わってきたように感じます。

【田舎のまちでも理解を進めていくには】

一方、田舎では、都会に比べて古い考え方の人も多いなどの理由から、性的少数者への理解が進んでいない現状もあると感じています。ま

た当事者も、コミュニティが狭いため、同じ境遇の人を見つけにくい、噂が広まりやすいため周囲に打ち明けにくいなどの悩みを抱えているかもしれません。

田舎でも性的少数者への理解を深めるには、私たちがLGBTなどを学ぶ講演会へ参加する、新しい考え方を受け入れるなど、知見を広げ、多様な価値観を認め合うことが大切です。

【終わりに】

性のあり方が少数派であることは決して特別なことではなく個性です。もしかすると当事者に会っていて、気づかずに相手を傷つけたことがあったかもしれません。一人ひとりが性的少数者への理解を深めて、当事者に寄り添えるまちにしていきたいですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R5.5 月

ひゅーら ~ Human Love ~

「ウェルカミングアウト」の姿勢を大切に
～カミングアウトを「ウェルカム!」と受け入れられる環境を～

元フェンシング女子日本代表でトランスジェンダーの杉山文野さんの講演に参加し、自身の性を打ち明けるまでの苦悩や、LGBTQについて社会が抱えている課題などのお話を伺いました。

【日本におけるLGBTQの割合は?】

日本で最も多い名字は佐藤・鈴木・高橋・田中の4つで、人口の5～6%と言われています。ほかにも左利きや血液型がAB型の人の割合も同程度と言われています。皆さんの周りにもこれらに該当する方はいるのではないのでしょうか。日本のLGBTQ当事者の割合も同じように5～8%と言われています。「LGBTQの知人はいない」と思っている人の周りにも、実はカミングアウトできずにいる人がいて、「いない」のではなく「気づいていない」だけかも知れないのです。

【“ウェルカミングアウト”の姿勢】

講演では、「当事者の中には、LGBTQであることをカミングアウトすることで今の居場所がなくなってしまうのではないかと、周りから除け者にさ

れてしまうのではないかと、という恐怖心からそれができない人が多い。そういった人々を助けるためにも『カミングアウトしても大丈夫ですよ』という“ウェルカミングアウト”の姿勢を持つことが重要」とお話しされていました。

【お互いの違いを認め合おう】

カミングアウトを受け入れることは、当事者の自己肯定感の高まりにつながります。ウェルカミングアウトの姿勢に必要なのは、相手のことを受けとめ、認めることだと思います。みんながウェルカミングアウトの姿勢で、思い悩んでいる人たちの声をいつでも受け入れられるようになると素敵ですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅーら

～ Human Love ～

R5.6 月

男女共同参画による防災 ～女性の視点で防災力UP～

さまざまな分野で少しずつ女性の社会参画が進んでいます。今回は、防災や避難所での生活に欠かせない女性の視点と防災活動への女性参画について考えてみました。

【防災の現場は男性主体】

消防や警察、自衛隊など、防災に関わる職業に占める割合は女性に比べて男性が非常に高く、女性の参画が十分に進んでいません。これまで、避難所のルールづくりや必要な物資の選定など、多くを男性が担ってきました。そのため、女性のニーズへの配慮が足りず、さまざまな課題が生じていました。

【求められている女性の視点って？】

避難所では多くの人が狭い空間で共同生活することになります。過去の災害時には、更衣室が男女別に分かれていない、授乳室がない、生理用品や下着を男性が配っていて受け取りづらいなど、女性はさまざまな問題に直面してきました。男性と女性ではその困難の質や度合いに大きな違いがあります。

誰にとっても安全で安心できる避難所環境をつくるためには、男女のニーズの違いや子育て家庭への配慮が欠かせません。防災や避難所の管理運営に女性の視点を取り入れる必要があります。

【男女共同で防災力を強化！】

災害時には、性別を問わず、多くの方が大きな困難に直面します。「男性だから」、「女性だから」と性別で役割を決めつけず、平時から男女が協力して避難所訓練やマニュアルを作成したり、防災活動へ女性が参画しやすい工夫をするなど、女性の視点を取り入れながら、男女が共同で災害に強い地域づくりを進めることが大切です。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅーら

～ Human Love ～

R5.7 月

ニュースから世界のLGBTQについて考える ～すべての人が自分らしく生きられる社会のために～

今年3月、大阪地裁はウガンダから日本に「逃れてきた」ウガンダ国籍の同性愛者の女性を難民と認めるよう命じる判決を下しました。この女性は、なぜ故郷から日本へ「逃れてきた」のでしょうか？

【安全な暮らしを求めて】

ウガンダなどの中東の多くの国では、同性愛者と自認しただけで犯罪者として扱われ、最悪の場合、極刑に処されてしまう法律もあります。この女性は、同性愛者であることを理由に現地の警察に逮捕され、暴行によって大けがをするなどの迫害を受け、安全な暮らしを求めて日本へ逃れてきたのです。

【続く同性愛への差別】

世界の宗教の中には、同性愛を禁止するものもあり、法律で同性愛を犯罪と定める国もあります。

アメリカでは1950年代に同性愛者の権利運動が始まり、現在では、欧米諸国を中心に同性愛者の権利を保障する制度を持つ国や地域は世界の

20%に及びます。世界の主要都市などでは「プライド」と呼ばれるLGBTQを讃えるイベントが毎年開催されている一方で、アフリカや中東の一部の国では2000年代以降も同性愛やLGBTQの人たちを激しく差別し、迫害が続いています。

【自分らしく生きる権利】

このニュースを見て、多様な性や個性を認め合い、自分らしく生きることの難しさを感じました。

世界人権宣言では、すべての人間は、生まれながらにして自由で、かつ尊厳と権利についてはみな平等とされています。

国籍や宗教などによらず、誰もが自分らしく生きられる社会になるといいですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅーら

～ Human Love ～

R5.8 月

みんなが働きやすい環境のために
～建設業への就活体験記～

今回は、来春から建設会社へ就職する現役大学生編集委員が、就職活動を通して感じたことを紹介します。

【建設業のイメージと実態】

就職活動をする前は、建設業は「3K」と言われる「きつい、汚い、危険」な労働環境で、就業者は男性中心というイメージを持っていました。

実際に、女性就業者の割合は約17%で、全業種の女性比率の約45%と比較してかなり低い水準となっています。

こうした状況を踏まえ、国土交通省は、誰もが働きやすい建設業界を目指し、短時間勤務制やテレワークの導入など、女性が働きやすい労働環境づくりなどに官民一体で取り組んでいます。

【インターンシップで感じたこと】

実際に建築関係の企業のインターンシップに参加した際、女性技師を増やすために、現場の仮設トイレを男女別に設置したり、生理などで汚れても

わかりにくいように、作業着を淡い色のものから濃い色のものへ変更したと聞きました。仕事の内容にかかわらず、女性が参画できるような職場に変えていこうという会社があるのだと感激しました。

【就職活動を終えて】

就職活動を経て、昔ながらの「女性を受け入れがたい」意識の改善や、出産・子育てと仕事を両立できる制度を少しずつ整えていこうといった、柔軟性や多様性を大事にした働き方の改革が進んでいることがわかりました。多様化するニーズに応えることや人材を確保するためには、みんなが働きやすい環境作りが必要不可欠だと改めて感じました。

来春から新社会人、頑張ります！

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅーら

～ Human Love ～

R5.9 月

デジタル化と女性の働き方について

さまざまな分野でDX（デジタルトランスフォーメーション）が進んでいます。今回は農業を例に働き方について考えてみました。

【性別による役割分担】

国内に普及した当時のトラクターにはパワーステアリング（操舵アシスト機能）がついておらず、ハンドルを操作するのも一苦労でした。加えて、重たいクラッチでギアチェンジをしながら植え付けなどの作業をする必要があり、かなりの重労働でした。その結果、男性が運転し、女性が補助労働をするという性別分業が定着したと考えられます。

【スマート農業の導入】

近年では、GPSを活用した自動操舵機能付きのトラクターや、有人トラクターで無人トラクターを操作し、2台同時に作業ができるトラクターも開発され、性別や経験、能力に関係なく運転す

ることができるようになりました。

これにより、今まで2人で行っていた作業や、2度に分けて行っていた作業が効率的になり、生産性の向上にも繋がっています。

【ライフスタイルに合わせた働き方】

技術の進化に伴い、農業だけでなく、さまざまな分野でデジタル化が進み、これまで性別によって固定されがちだった職業や役割も、性別に関わらず選択できるようになってきています。

デジタル技術を活用し、性別、時間、場所などにとらわれず、ライフスタイルに合わせた多様な働き方ができるようになると良いですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅ〜ら

～ Human Love ～

R5.10 月

自分らしさを認め合う、ひとりひとりが生きやすい社会へ

人生にはさまざまな選択の場面がありますが、自身のあり方、家族のあり方も多様化しています。自分らしい選択・あり方とはなんでしょうか。

【姓の選択】

日本では、民法の定めにより、「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」とされており、夫婦別姓は認められていません。そして、姓の選択において、平成28年の国の統計では実に96%が夫の姓を選択しています。

【性のあり方】

また、日本では、現行憲法の下では、「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立する」とされており、同性婚は認められていません。性自認や性的指向の違いなど、性のあり方が多様であるにもかかわらず、男性か女性の二択を迫られる機会もまだまだ多く、生きづらさを感じている方も少なくありません。

【主体的な姓選択と多様な性のあり方】

例えば、「伝統的な家族のかたちが崩れる」、「家族が同じ姓になることで、夫婦・家族の一体感が生まれ、子の利益にもなる。」などのように夫婦別姓に反対する意見もあります。

しかし、家族のあり方は家族の数だけ存在します。性のあり方も男性・女性だけでなく人それぞれです。

社会には多くのルールや決まりがありますが、今後さまざまな選択肢が増え、自ら選ぶことで大切なアイデンティティを守ることができる社会になるといいですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員

※平成28年の国の統計：厚生労働省の婚姻に関する統計のことです。



男女共同参画コーナー

ひゅ〜ら

～ Human Love ～

R5.11 月

自分のロールモデルを探そう！

「趣味を仕事にしたい」、「なりたい理想像はあるけど、どうしたらよいのかわからない」そんなことを考えたことはありませんか？

【ロールモデルって？】

考え方や価値観・行動に共感や憧れを持ち、「こんな人になってみたい!」と思う人をロールモデルといいます。ロールモデルを設定すると、理想とする人がどのように働いていて、輝いているか、自分の目標が具体的にになり、理想に近づくためのプランがより明確になります。特に女性は、出産や育児といった大きなライフイベントのときに、ロールモデルがいると不安も軽減されます。

【おしごと見本市に行ってみよう】

11月25日(土)にオホーツクキャリアデザインネットワーク(以下、OCDN)主催のイベント『おしごと見本市』が開催されます。OCDNは、企業経営者・広告デザイナー・管理栄養士・農業者・子育て中・介護中などの多種多様なキャリアを持つ女性たちが所属する団体です。当日は創業セミ

ナーや支援機関への相談ブースのほか、OCDNメンバーのブース展示などがあり、有識者や経験者から実際に話を聞くことができます。

【理想×自分らしさ】

ロールモデルは複数人設定すると、それぞれの良いところを参考に、自分らしさを持たせることができます。実際に経験者から喜びや苦悩を聞いて、自分のロールモデルを見つけるのも1つの方法です。ロールモデルを作ってなりたい自分に近づきましょう。

おしごと見本市

日 時：令和5年11月25日(土) 午後1時30分～4時

場 所：北見市民会館 小ホール

参加費：参加無料

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅ〜ら

～ Human Love ～

R5.12 月

DV問題、ひとりで悩まず相談しよう

DV(ドメスティックバイオレンス)は、日本では「配偶者や恋人・パートナーから受ける暴力」と解釈されることが多いですが、家族の間での身体的・精神的虐待のことを指すこともあります。

【暴力はどんな理由があってもダメ】

1年間に警察が受理した配偶者やパートナーからのDVの件数は、19年連続で最多を更新し続いています。昨年の結果だと、被害者の約73%は女性ですが、男性からの相談も毎年増加しています。

また、夫婦やパートナー間だけではなく、親子間、兄弟姉妹間でも、暴力による残忍な事件が実際に起こっており、性別や関係性によらず誰もが関係し得る深刻な問題となってきています。

【もし被害にあったら】

叩く・蹴るなどの身体的暴力以外にも、無視・暴言などの精神的暴力、性行為の強制など、DVといってもさまざまです。DVは家庭という密室で起こることが多く、被害を受けている本人が声を挙げないと周りは気が付きません。もし被害にあったら、ひとりで悩まず相談窓口や信頼できる

身近な人へ相談しましょう。また、身近な人から被害を受けていると伝えられたら、相談窓口を教えてあげましょう。配偶者・パートナーに限らず、家庭内の暴力の解決に向けてサポートしてくれる人たちが多く存在します。「自分だけが我慢すれば家族は幸せ」などと思わず、家族全員が安心して生活するために周りの人や相談窓口に相談することが大切です。

《相談先》

- 女性相談（面談・TEL）
市役所本庁舎1階 子育て支援課
- 性暴力に関するSNS相談「Curetime」（内閣府）
<https://curetime.jp>
- DV相談 + ^{プラス}（内閣府）（TEL・メール・チャット）
TEL：0120-279-889 <https://soudanplus.jp>

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅ〜ら

～ Human Love ～

R6.1 月

夫婦で行う育児奮闘記（その2） ～VS「イヤイヤ期」～

前回（昨年9月）の育児奮闘記の掲載から早1年が経ちました。娘の成長の様子とともに、夫婦で育児を経験して感じたことをお話しします。

【イヤイヤ期到来】

前回掲載した頃は、まだ「ばばば」としか喋れなかった娘も、私が作ったご飯を「おいしい」と言って食べてくれたり、喋れる言葉も増えてきました。娘はもうすぐ2歳になりますが、自我や自立心が芽生え強まってくる時期、いわゆる「イヤイヤ期」に入り、私も妻も悩まされています。

娘をお風呂に入れようにも「いやー!!」。似合うと思って買った赤いパーカーもお気に召さず、着せようとしても「だめよ!!」の一点張りで、言い出すときがありません。

【イヤイヤ期を乗り越えるために】

どれだけ可愛い娘の育児でも、正直ストレスが溜まることはあります。娘が私の言うことを聞か

ないときは妻に、妻でダメなときは私が娘の世話をするなど、日々奮闘しています。

少しでもストレスを発散するよう、娘が寝た後にお酒を飲みながら夫婦でリラックスできる時間を作るようにしています。

妻とともに、娘のイヤイヤ期と向き合いながら思うのは、夫婦の協力無くして健やかな育児はできないということです。この“健やか”は子どもの成長だけではなく、夫婦の精神面にも言えます。

家事や育児のストレスを理解し合い、2人で協力してイヤイヤ期を乗り越えたとき、娘とともに私たち夫婦も成長を感じられるのかなと思います。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅ〜ら

～ Human Love ～

R6.2 月

働く女性にとって魅力的な組織づくり ～女性活躍推進セミナーに参加して～

札幌で開催された女性活躍推進セミナーに参加し、魅力的な組織づくりになぜ多様性やジェンダー平等が必要かを学びました。セミナーで講師の方が話していた内容を紹介します。

【講師の方は言います】

産休・育休から職場に復帰した際、休暇前と同じポジションで、子育てをしながら仕事ができないと、それは新しい世代にとって働きづらい企業である。

短縮勤務などの仕事と子育ての両立を支援する制度がありますが、この制度が逆にマミートラック※になることもあります。

「短縮勤務中だから、この仕事は別の人に」「出産したら今までどおり働けないから仕事を減らさなければ」一般論や、良かれと思ったこのような配慮は、スキルアップを目指している人の気持ちが組み込まれていない可能性があります。これは、好意的な差別でもあります。

【それぞれに合った仕事を】

このような行き違いを防ぐには、働く女性の声を聞く機会をつくり、意向を尊重した上でチャンスと経験を与えることが大切です。対話をして初めて分かることもあるでしょう。

簡単な業務しか任せてもらえないと、仕事へのモチベーションも低下してしまいます。期待され、仕事を任される経験により「私ができることなんて限られている」という考え方が変わり、キャリアを前進させ、人生を豊かにすることもあります。

【セミナーを受講して】

女性が働き続けることの難しさが印象に残りました。性別に関わらず、ライフプランに合った制度を活用し、自身のキャリアについて前向きに考えられるような社会になると良いですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員

※マミートラック・・・出産を終えて社会復帰した女性や子育てをしている女性が出世コースから外され、キャリア形成が難しくなること



男女共同参画コーナー

ひゅ〜ら

～ Human Love ～

R6.3 月

子どもと温泉 何歳まで？

まだまだ寒い日が続きます。そうすると温泉に入りたくなる方も多いのではないのでしょうか。子どもと温泉に行くとき、年齢によっては混浴できない可能性があります。行く前に、自治体が定める混浴制限年齢や施設の条件を確認しましょう。

【混浴年齢の引き下げ】

我が家は大の温泉好きで、月に何度か幼い息子たちを連れて温泉施設へ足を運んでいます。妻が3歳の長男、私が1歳の次男と一緒に入浴しており、子どもと一緒に広い浴槽でゆっくりする時間はとても幸せな一時です。

そんな我が家にも関わってくるのですが、全国の多くの自治体で混浴制限年齢が引き下げられ、ほとんどの公衆浴場で7歳以上の子どもは保護者と混浴ができなくなっています。北海道も昨年4月に混浴制限年齢を10歳から7歳に引き下げました。

【家庭に及ぼす影響は？】

我が家では、長男が6歳になる頃には次男も4歳になるので、私が2人を連れて入浴すれば済むのですが、ひとり親で異性の子どもを育ててい

る家庭や、障がいのある子を育てる家庭はどうなるのでしょうか。

小学校低学年くらいの幼い子どもを一人で入浴させるのはケガやトラブル、事故のリスクがあり、不安ですが、性の目覚めが早い子どもや、良からぬ目で子どもを見る大人もいるため、子どもを性被害の加害者や被害者にしないためにも規制は必要だと思います。

【みんなでお風呂を楽しむために】

規制するだけではなく、貸し切り家族風呂の新設・増設など、年齢制限が原因で公衆浴場を利用できなくなってしまう家庭向けの対策があると嬉しいですね。どんな方も公衆浴場を楽しめるような対策を講じ、温浴施設業界が盛り上がることを祈っています。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員